

第7次岡崎市総合計画

序論

- 昨年度に整理した岡崎市の概要、社会動向、人口推計等を取りまとめて作成

総合政策指針

- 昨年度から今年度にかけてご審議いただいた案を、12月議会にて議決

計画体系図

- 第7次総合計画、個別計画の体系を整理

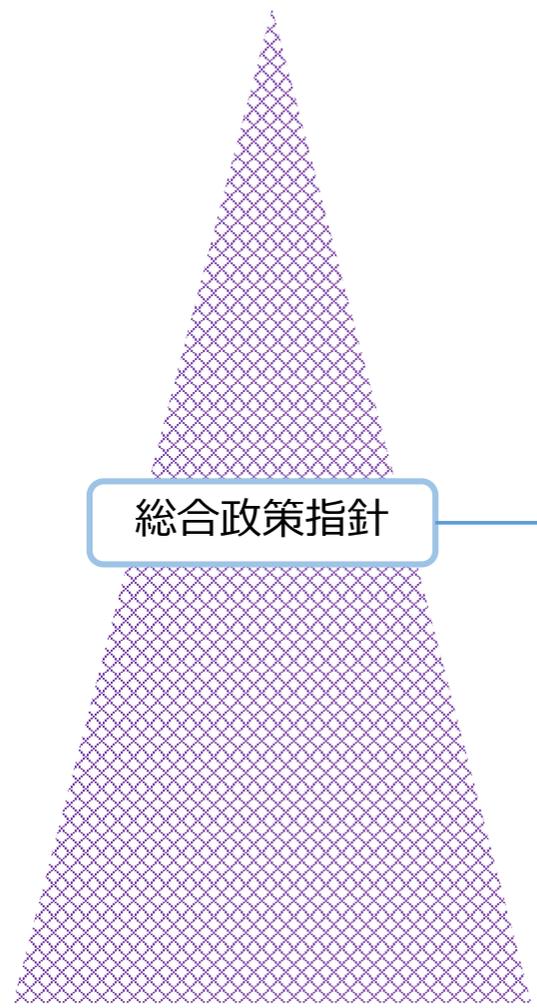
未来投資計画

- 分野別指針について、主な取組みをまとめる。
- 将来都市像の実現にむけたパッケージを作成し事業概要等を設定する。

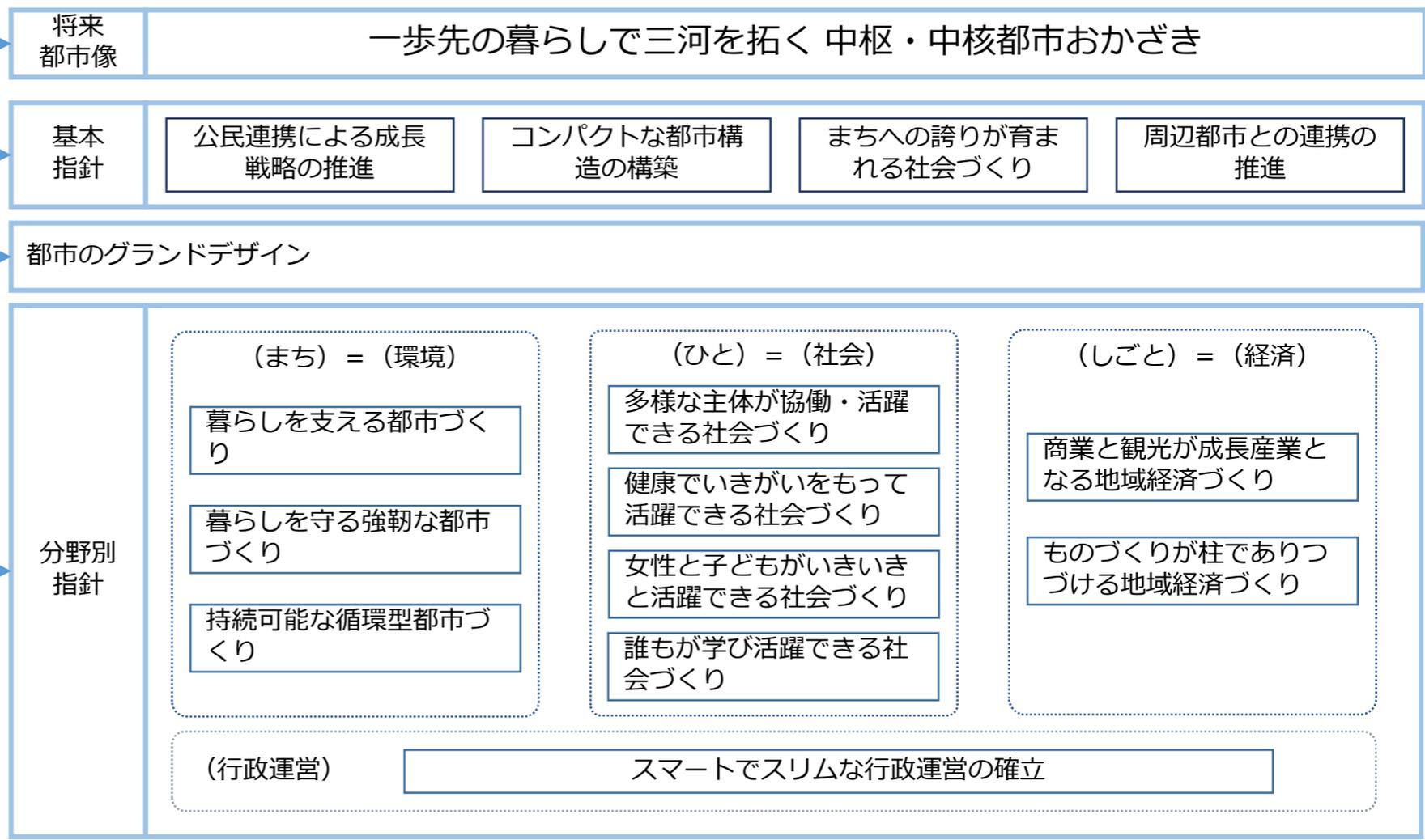
資料編

- 計画の策定過程における審議会や議会での議論の経過、各方面からいただいたご意見等を記載

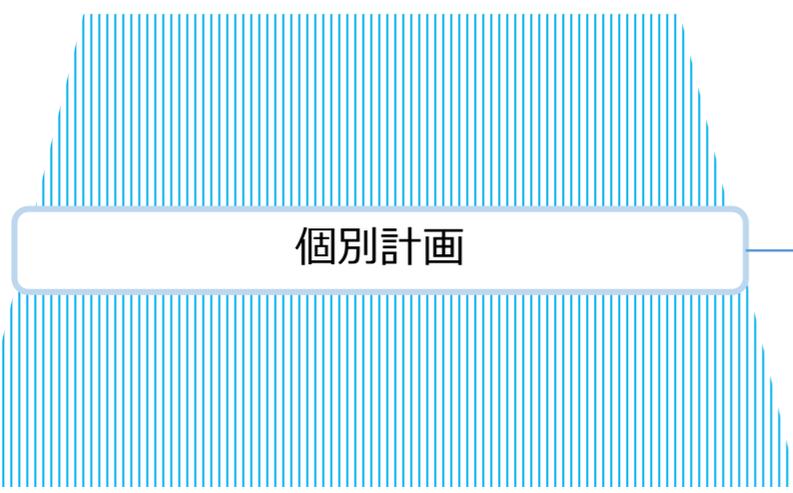
岡崎市第7次総合計画



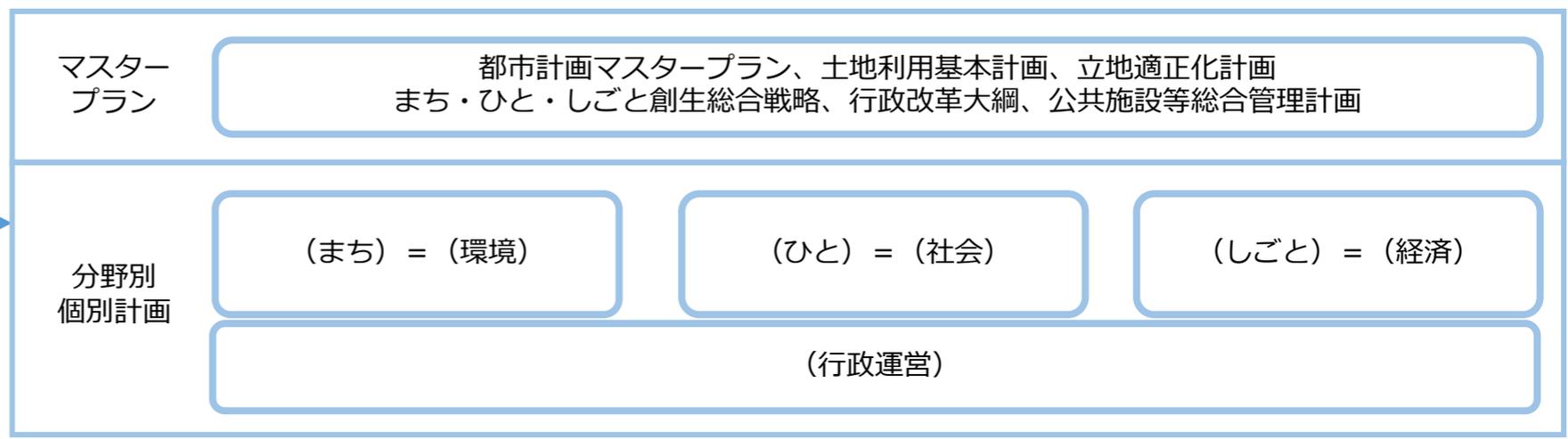
総合政策指針



未来投資計画



個別計画



【総合政策指針（R1.12議決）】

30年後に目指す姿	将来都市像	<p>一歩先の暮らしで三河を拓く 中枢・中核都市おかげ</p> <p>国内屈指の製造業拠点である三河地域において、人口規模を増加・維持する取組みが効果を発揮し、行政・学研機能やさらなる商業機能の集積、新技術のまちづくりへの活用を通じて、利便性や先進性の高い暮らしが実現できる都市として三河地域の発展を牽引する役割を担っていることをめざします。</p>
	基本指針	<p>(1) 公民連携による成長戦略の推進</p> <p>市場性が見込まれる行政サービス領域について、民間の経済活動と行政が相互に補完し合うことをめざす取組みをきっかけに、さらなる市場機会の創出や地域経済の活性化を図るとともに、暮らしを楽しむまちとして市民や民間事業者に選ばれる都市の実現をめざします。</p>
		<p>(2) コンパクトな都市構造の構築</p> <p>今後の人口ピーク上昇・先送りを見据えたランドデザインと、これに沿ったまちづくりへの投資・保全や都市の強靱化により、集約連携型都市の実現をめざします。</p>
		<p>(3) まちへの誇りが育まれていく社会づくり</p> <p>本市に関係する誰もが活躍できる都市を実現するとともに、未来を担う子どもたちをはじめとする全ての世代が本市固有の資源を活用することにより、まちへの誇りが育まれていく都市の実現をめざします。</p>
		<p>(4) 周辺都市との連携の推進</p> <p>三河各都市との役割分担において暮らしの拠点である特性を活かし、連携して広域的な共通課題の解決を推進することで、共に発展していくための拠点となる都市の実現をめざします。</p>
<p>都市のランドデザイン</p> <p>過去から現在、現在から未来への連続性を見通しながら、高齢化社会への対応や、しなやかで強靱な都市の実現を視野に入れ、基本指針で掲げた「人口ピークの上昇・先送りを見据えたランドデザイン」を設定します。</p> <p>(1) 市域中心部 ア 都市機能用地や居住地の確保と強靱化 ・ イ 居住の促進</p> <p>(2) 市域周辺部 ア 居住地の確保 ・ イ 産業用地の確保 ・ ウ 自然環境の保全</p> <p>(3) コンパクト・プラス・ネットワーク</p>		

以下、いずれの分野においても基本指針の全てを踏まえたものとなることを前提とする

10年間の取組みの方向性	分野別指針	① 暮らしを支える都市づくり	② 暮らしを守る強靱な都市づくり	③ 持続可能な循環型の都市づくり	④ 多様な主体が協働・活躍できる社会づくり	⑤ 健康でいきいきと活躍できる社会づくり	⑥ 女性や子どもがいきいきと活躍できる社会づくり	⑦ 誰もが学び活躍できる社会づくり	⑧ 商業と観光が成長産業となる地域経済づくり	⑨ ものづくりが柱でありつづける地域経済づくり	⑩ スマートでスリムな行政運営の確立
--------------	--------------	----------------	------------------	------------------	-----------------------	----------------------	--------------------------	-------------------	------------------------	-------------------------	--------------------

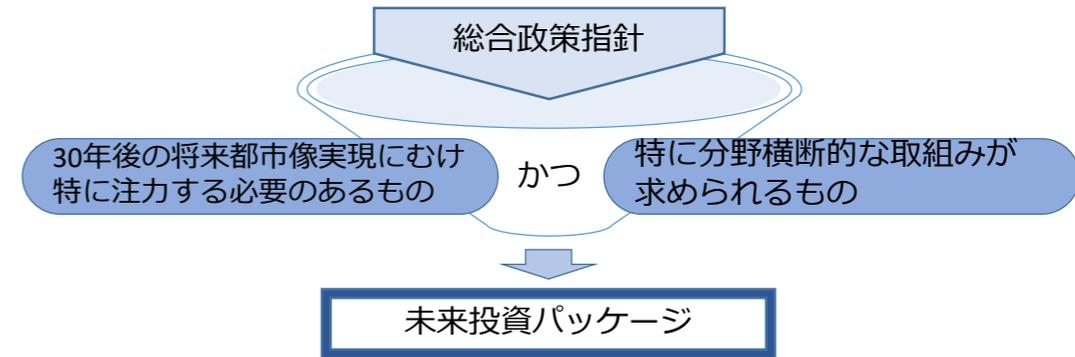
未来投資パッケージ

未来投資パッケージの役割

- 「分野別指針」の推進により30年後の「将来都市像」の実現が図られていくが、左図のとおり、分野別の考え方はともすると縦割りの弊害が生じやすい。
- そこで、以前の審議会でもご意見をいただいたとおり、横ぐしの概念により「将来都市像」を強い推進力をもって取り組んでいく。
- 対象期間を10年間としつつ、中間年次を迎える5年後に進捗管理と見直しを行う。

未来投資パッケージの抽出

- 未来投資パッケージは以下2点を満たす取組みを総合政策指針より抽出



未来投資パッケージの一覧候補

- 事務局にて抽出した取組み候補の一覧は下表のとおり。それらを大きく3つの視点で整理した。

パッケージの視点	パッケージ候補
利便性や先進性の高い暮らしと選ばれる都市の実現	観光産業都市化
	工業立地促進
	新産業創出・育成
人口規模の維持・増加と集約連携型都市の実現	市域中心部居住誘導
	市域周辺部居住誘導
	交通ネットワーク構築
	居住誘導エリアの強靱化
三河地域の発展	広域強靱化
	スマート自治体推進
	広域観光推進
	新たな広域課題への挑戦

- 次頁以降、3つの視点ごとに目的・方向性・スケジュール概略・取組み概要を記載
- 今回の審議会でも次頁以降をご審議いただき、そのご意見を踏まえ次回審議会では指標等について事務局案を提示

利便性や先進性の高い暮らしと選ばれる都市の実現

目的 一歩先の利便性・先進性の高い暮らしの実現と地域経済の活性化

方向性 暮らしを支える活発な経済活動を市内に誘導・育成

スケジュール概略
 ▶ 第6次総合計画期間における取組みの連続性をふまえ、観光産業都市化と工業立地促進を先行させる。
 ▶ 新産業創出は、ものづくり産業と観光産業に次ぐ新たな産業の柱を探すための領域開拓と、これを育んでいくことを想定



【観光産業都市化パッケージ (以降、P)】

リバーフロント	山間部	その他
コンベンション・各種MISE推進・ナイトタイムエコノミー推進・プロモーション・民間投資誘導(高度利用誘導規制緩和)・商業機能誘導・カフェ誘導・東岡崎駅再開発・スマートシティ推進・スマートウェルネスシティ推進	民間投資誘導	大樹寺周辺公共投資・東部誘導促進(スマートインター)・南部誘導促進
コンテンツ開発促進(体験・食・産業・自然・歴史・文化)・担い手確保		

【工業立地促進P】
 周辺市町・関連企業・交通網を勘案した立地促進

北部	西部	中央	東部	南部
スマートインター 豊田東インター	隣接豊田市	岡崎インター	岡崎東インター	23号 名古屋三河

【新産業創出・育成P】

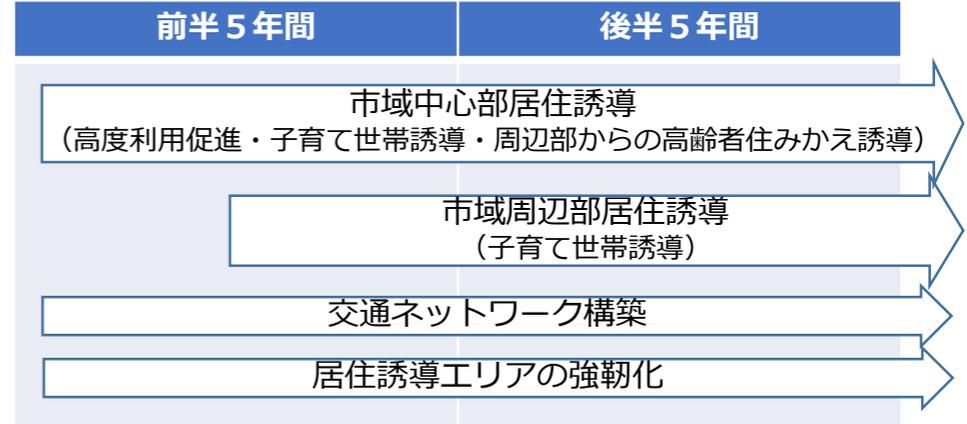
リバーフロント	全域
スタートアップ拠点形成・サテライトオフィス誘導・パラレルワーク促進	行政サービス領域の総点検・民間事業者提案制度の構築・地域未来投資促進・学術研究機関連携(例:自然科学研究機構TILIAカンファレンス)

人口規模の維持・増加と集約連携型都市の実現

目的 人口規模の維持・増加の実現と持続可能性確保

方向性
 ▶ 市内(中心部&周辺部)への子育て世帯誘導
 ▶ 市域周辺部から市域中心部への高齢者住みかえ誘導

スケジュール概略
 ▶ 第6次総合計画期間における取組みの連続性をふまえ、中心部高度利用促進を先行させる。



【市域中心部居住誘導P】

高度利用誘導・規制緩和

- ✓ 民間投資誘導
 - 高層階: マンション・カフェ・高齢者マンション
 - 低層階: 商業・医療
- ✓ 商業機能誘導・カフェ誘導・東岡崎駅再開発・スマートシティ推進・スマートウェルネスシティ推進

↓

子育て世帯誘導

- ✓ 中心部勤務の世帯誘導(中心部オフィス勤務)
- ✓ 名古屋勤務の世帯誘導(リニア開通名駅ビル開発)

高年齢者住みかえ誘導

- ✓ 市街化区域周辺部からの住みかえ誘導・支援

【市域周辺部P】

高年齢者住みかえ促進

- ✓ 中心部への住みかえ促進・支援

↓

子育て世帯誘導

- ✓ 市街化区域周辺部勤務や市外勤務の世帯を誘導

↓

駅周辺子育て世帯誘導

- ✓ 駅周辺開発(美合駅・西岡崎駅)

【居住誘導エリアの強靱化P】

- ✓ 密集市街地対策
- 地震対策・浸水対策・情報伝達対策・IT対策

【交通ネットワーク構築P】

- ✓ 道路ネットワーク: 各都市計画道路整備
- ✓ 交通ネットワーク: 基幹公共交通軸へ近未来技術導入・ラストマイルへ近未来技術導入

三河地域の発展

目的 暮らしの拠点性を活かした周辺自治体連携による課題解決

方向性 単市より広域で取り組んだほうが合理的な既存課題への対策を進めるとともに、新たな課題における広域課題解決の可能性を探る

➤ 西三河での一体的な経済活動を踏まえた「広域強靱化」、三河中核市を中心とする「スマート自治体」実現にむけた自治体事務の標準化、三河地域新幹線駅利用促進期成同盟会をはじめとする「広域観光」の取組みを先行させる。

